

「シニア産業カウンセラー育成講座」 「No.11 逐語記録・事例報告の作成と検討」を受ける方へ

【難関への挑戦】

シニア講座の最大の難関といわれるのが、「逐語」講座です。特に2期は、6か月前から「申込受付」となっていることからお分かりいただける通り、事前課題として「3回以上の継続カウンセリング」を元に20分程度の逐語記録を起すたいへんな作業が待ち構えています。作成したことがある人なら、誰しもお分かりかと思いますが、一度作成した逐語記録であっても、見直しをすればするほど新たな気づきがあるものです。これこそ、自身のカウンセリングを客観的に見て改善のヒントを得る最良の機会なのです。それ故、2期を申し込む際には、周到に準備していただくことが肝要です。

【承諾書の位置づけ】

CLは、ピアカウンセリングでも

構わないことになっています。しかし、その場合でもCLから「承諾書」を必ずもらうようにしてください。よく「承諾書は必要なのではないか？」とお尋ねがありますが、承諾書はCLが、COに対して「自分の録音が勉強目的で使われることを承知した」という意思表示です。後々のトラブルを避け、受講者ご自身を守るためにも、保管しておいてください（協会に提出するものではありません）。

【録音環境】

オンラインでの録音可否についても、よくお尋ねがあります。すでに、オンラインでのカウンセリングは珍しいことではなくなっていますので、オンラインでの録音を禁止する立場にはありません。オンラインの場合、CLの全身を観察できないなどのデメリットが指摘される一

方で、CLの音声は細かな息遣いまで聞こえるといったメリットもあります。CLのニーズやメリット・デメリットを、ご自身で判断ください。録音機材については、ICレコーダーを推奨しており、スマホの録音機能による録音は望ましくないと考えています。これは、通信機能のある機器にスパイウェア等が侵入して録音を盗み聴きされるリスクがあり得るためで、受講者さんとCLを守る目的です。

【事前学習と自己研鑽】

シニア講座では、ある程度の基礎的な学習を済ませてから受講されることをお勧めしている科目がありますが、この講座も過去に逐語検討会に提出した経験があることが望ましいとしております。産業カウンセラーは、日頃からケースカンファレンスや事例検討会などに

積極的に参加することはもちろん、スーパービジョン制度の利用など自己研鑽をお願いします。

【参加態度など】

逐語検討会や事例検討会に、自身が提出者ではなく参加したときには、学習材料の提出者に感謝の念をもつて臨みたいものです。提出者を批判しないのはもちろん、提出者の気づきに繋がるような質問やフィードバックも心掛けたいものです。

【何を振り返るのか】

養成講座では、必ず「自己理解」が「ねらい」に掲げられていたはずですが、「うまくできなかった」「次はもっと丁寧に応答したい」というのでは、自己理解には不十分です。そのときの自分の有り様がどうだったのか？自己一致できなかった、受容できなかった、共感できなかったのなら、なぜそうなったしまったのかを、突き詰めて振り返りたい。そうした深い自己理解なくして、シニアCOのCL理解には届かないと言えます。